

令和7年度「学校教育自己診断」の分析結果及び考察

○令和7年度における質問項目の設定

経年での変化を観察するため、昨年度と同様の質問内容とした。

○アンケートの回答方法

保護者向けには配布したプリントを回収して集約した。生徒・教員向けはGoogleClassroomで回答しスプレッドシートで集約した。A B C D Eの5段階での評価とした。

○アンケートの実施方法

保護者向けには11月に配布した。生徒・教員向けも11月にClassroomで実施した。

○回答数

	総数（回収率）	（参考）令和6年度
生徒アンケート	135（95.1%）	133（95.1%）
保護者アンケート	134（94.4%）	131（92.3%）
教員アンケート	61（100%）	61（100%）

※今年度は、昨年度より保護者の回収率が高くなった。

○生徒アンケートについて

肯定率の平均 85.7%（昨年度84.3% 1.4ポイント上昇）

回答 1年47 2年45 3年43 計135

昨年度より全体的な肯定率が1.4ポイント上昇した。「授業はわかりやすく、楽しい」が5ポイント、「学校で将来の進路や生き方について考える機会がある」が3ポイントの上昇であった。学校教育の基本となる授業に対する肯定的意見の上昇は、教育活動の充実を示している。また、職業学科を設置する高等支援学校として、将来の進路や生き方を考える項目が上昇したことも様々な進路行事等を含めた教育実践の成果であると捉えられる。しかし、「学校は通学路の安全確保を行っている」や「避難訓練などで非常時の安全について考えることができた」の項目が、それぞれ10%、6%下降した。通学路には登下校時、教員が立ち番をしているが、昨今の凶悪事件が多発していることから不安に感じる生徒が増えている可能性がある。教育の根幹となる安心、安全にかかわる項目だけに原因を探り、対処していきたい。

○保護者アンケートについて

肯定率の平均 86.9%（昨年度83.9% 3.0ポイント上昇）

回収率が昨年度より約2ポイント上昇し、肯定率も3.0ポイント上昇した。項目別でみると「授業参観や学校行事に参加したことがある」が10ポイント以上、上昇した。学校からWebや書面を通じて学校の情報を提供しているが、実際に学校を訪れてもらい、生徒の学習の様子を直接見てもらえる機会が増えていることが喜ばしいことである。また「学校は子どもの障がいや状況についてよく理解している」が7.8ポイント上昇した。保護者と

の懇談等の機会を多く持ち、日々の情報発信、共有することで理解を深めることができていると考えられる。しかし、「子どもは、授業が分かりやすく楽しいと言っている」が5ポイント近く低下しており、生徒の評価とは逆の結果となっている。この原因を解明し対策を検討していきたい。

○教員アンケートについて

肯定率の平均 80%（昨年度比7.0ポイント低下）

昨年度に引き続き、回収率100%を達成できたが、肯定率の平均は80%で、昨年度より7ポイント低下した。特に「生徒指導の方針を共通理解することができた」が13ポイント以上低下している。近年、指導が困難かつ複雑な生徒が増加しており、その対応について意見が分かれることが多くなってきており、その表れとも考えられる。学校内だけでなく、SSWやSC、その他外部機関と緊密な連携をとりながら、校内外での指導、支援のコンセンサスを図れるようにしていきたい。